2016年1月 4日

2016年 社長（三宅 俊作）年頭挨拶について

各 位

新年明けましておめでとうございます。
本日行われた、当社社長 三宅 俊作の社員に対する年頭挨拶の要旨を、下記のとおりお知らせします。

記

1. 事業環境

昨年の当社事業を振り返ると、生産量は日量12万バレルを超え、2010年のJX発足以来初の前年比増加に転じた。また、探鉱・開発の各事業においても相応の成果を挙げることが出来た。しかしながら、油価低迷の影響はいかんともしがたく、石油・天然ガス開発セグメントの2015年度の業績見通しは非常に厳しい。経常利益が第2次中期経営計画の当初目標を下回ることは、避けられない見込みである。
昨年末のOPEC総会で減産合意が得られなかったこともあり、今後、低油価がいつまで続くのか見通しが困難な状況であるが、当社としては、立ち止まらず、この環境下でも生き残っていく方法を実行する必要がある。すなわち、選択と集中を更に推し進め、キャッシュフロー経営を徹底するとともに、人材を育成し、世界で戦えるポテンシャルを身に付ける、ということである。

2. 本年の課題

1点目は、既存の計画を着実に遂行することである。生産中の案件については、コスト管理をより強化しつつ、生産性を維持することにより、低油価への耐性を上げ、また、マリナー油田、ラヤン油ガス田、米国CO_2-EORプロジェクト等の開発中案件については、予定通りに立ち上げることである。
2点目は、資産売却である。中長期的なポートフォリオ戦略を勘案しつつも、短期的な収益・キャッシュフローを確保するため、未来に向けて決意を持って臨む。
3点目は、組織体制の見直しである。現下の状況に鑑み、人材の適正配置とその活用は喫緊の課題である。目標達成をスピーディかつ確実にし、意思疎通を円滑化するための見直しを進める。
最後に、社内の一体感の醸成である。事業の方向性と目標をより具体化し「全員で共有する」こと、納得感と達成意欲を持って「全員で取り組む」ことが重要である。そのために、経営陣と社員との対話集会等を継続し、一新された本社の事務所や、海外現業所と本社をつなぐポータルサイト等の新しいツールを駆使することによって、社内のコミュニケーションを促進する。

3. 社員へのお願い

第1に、社員一人一人が主体性とスピード感を持って自分の役割を果たし、組織目標を実現することに拘ってほしい。そのためには、目標の共有と役割の明確化が必要である。
第2に、コンプライアンスの徹底である。昨今、国内外で名だたる名門企業が不祥事を起こしている。法令遵守は事業遂行の大前提であり、各国の法令や契約に従うことはもちろん、社会通念、世間の目線というものも意識してほしい。信用を築くのには長い時間が掛かるが、失うのは一瞬であるということを胆に銘じて欲しい。
最後は、安全の確保と健康の維持である。特に操業現場の社員には、安全を最優先に仕事を進めることを、重ねて強くお願いする。

以 上